

それ以外の公的な「病・産院」勤務者では、「だれでも利用できる」「世帯主であれば女性も利用できる」と答えた者が多かった。なお、サンプルは少ない（32名）ながら、男性会員について集計した結果は、「適用される職種が限られており、看護職には適用されにくい」が32.1%となった。

c) 持家取得援助（融資・資金積立・利子補給など）

勤務場所のいかんにかかわらず、「だれでも利用できる」が高い比率を占め、回答者の48.3%にのぼった〈統計表116〉。

「制度そのものがない」と答えた者は17.5%、「わからない」と答えた者は19.5%だった。

上述の調査結果のみから看護職が職業集団全体として女性であるがゆえの性差別をうけていると判断することはできない。しかしながら少なくとも原則的に医師と共働する病院現場では医師の補助者として位置づけられがちな看護職が、福利厚生面で、男性中心の医師および事務職と区別された扱いをうけている場合があるという点には着目してよいのではないだろうか。

## VI. 会員看護職の職業人像

### (1) 職業選択満足と継続意志

看護職としての仕事を選んだことについて、「満足している」と答えた者の比率は年齢の上昇に伴い増加する傾向があり、逆に「満足していない」と答えた者は、20代で20%を越えている〈統計表118〉。職種別に見ると「保健婦」では「満足している」者の比率が他職種より高く、「准看護婦(士)」では「満足していない」者の比率が他職種を上回った〈統計表119〉。

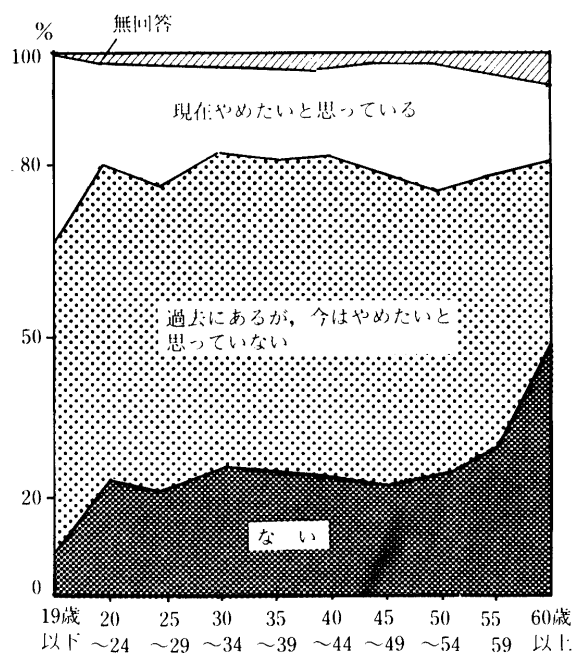
継続意志については、看護職としての仕事を「やめたいと思ったことはない」者は、各年代を通じて20%強おり、また「過去にやめたいと思ったことがあるが、今はやめたいとは思っていない」者も50%台である。しかし、「現在やめたいと思っている」者の比率は全体の18.8%で、特に「25～29歳」では22.3%と他世代より有意に高くなった〈図8〉〈統計表122〉。

職種別に見ると、「保健婦」では「やめたいと思ったことはない」者の比率が他職種を上回り、「現在

やめたいと思っている」者は少なくなっている。「准看護婦(士)」では「現在やめたいと思っている」者が他職種を上回った〈統計表123〉。

〈図9〉に示すA～Fの6群は、職業選択満足と継続意志についての回答から合成したものである。

図8 看護職としての仕事をやめたいと思ったこと（年齢別）



年齢階層別にみると、C群(「満足している」「過去にやめたいと思ったことがあるが、今はやめたいとは思っていない」)は各年齢層を通じて40%台、A群(「満足している」「やめたいと思ったことはない」)は概ね20%台となっている。しかし、E群(「満足している」「現在やめたいと思っている」)の比率は50代で高く、F群(「満足していない」「現在やめたいと思っている」)は20代で12%を越えた<表29>。職種別に見ると「保健婦」ではA群の比率が高くF群が少ない。「准看護婦(士)」では他職種よりF群の比率が高くなった。

## (2) やりがい

あらかじめ設定した9選択肢から上位3つを選択する複数回答方式により<表30>の結果を得た。

年齢階層によりやや特徴が出ているのは、20代で「機器の操作や医学的知識をいちはやく身につけ活用する」を選んだ者の比率が他世代より有意に高く、また年齢が上昇するにつれ「職場のスタッフから相談されたり意見を求められたりする」ことを「やりがい」としてあげる者が多くなっていることである<統計表125>。後者は職場のベテランとして、また管理職としての立場を反映したものと見られる。

「病・産院」勤務者について所属部署と「やりがい」との関連を分析した。その結果上位3項目の内容はどの部署についても同じだったものの、いくつかの項目で各部署の特性を反映したと見ら

れる数値をみいだすことができる<統計表130>。

「機器の操作や医学的知識をいちはやく身につけ活用する」を選んだ者の比率は「手術室」「ICU・CCU」勤務者で有意に高く、「産科・婦人科系病棟」勤務者で低い。「患者やその家族から感謝される」という項目については「産科・婦人科系病棟」「混合病棟」勤務者で特に高く、「精神科」「看護部・総婦長室」でやや低い。「患者のニーズに応じて適確な援助や満足のいく対応ができる」という項目については「産科・婦人科系病棟」勤務者で高く、「外来」「手術室」勤務者でやや低い。他に、「手術室」勤務者では他部署と比較して「医師やパラメディカルスタッフから信頼され評価される」、「職場の上司から信頼され評価される」を選択した者の比率が高い。また「看護部・総婦長室」勤務者では「職場のスタッフから相談されたり意見を求められたりする」の比率が高くなっている。いずれも各部署における患者のニーズとそれに対する看護職のかかわり方やとるべき役割、医師等との共働関係のありようなどの特性を反映していると見てよいであろう。

前述の職業選択満足と継続意志に関する6群について「やりがい」として選ばれた項目を見ると、A群およびC群と、F群とを比較した場合、「仕事のなかで人間的に成長する」をあげた者がF群ではかなり少なく<表31>、またF群では「やりがい」として選んだ項目数そのものが他群より少ない傾向があった。

図9 職業選択満足と継続意志

		看護職としての仕事をやめたいと思ったことがありますか		
		な い	過去にあるが、今はやめたいとは思っていない	現在やめたいと思っている
看護職としての仕事を選んだことに満足していますか	満足している	A 1033(23.0%)	C 2088(46.5)	E 403(9.0)
	満足していない	B 16( 0.4)	D 388( 8.6)	F 415(9.2)

\*無回答146(3.3%)

表29 年齢階層別にみたA群～F群までの比率

	A	B	C	D	E	F	無回答
20歳代	20.8%	0.4	46.3	9.1	8.3	12.3	2.9
30	24.1	0.5	46.6	9.1	7.5	9.4	2.8
40	22.8	0.1	49.1	9.6	8.7	6.4	3.3
50	24.2	0.4	44.9	5.4	16.0	4.0	5.0
60歳以上	48.6	-	31.4	-	10.0	1.4	8.6

表30 やりがい

看護婦として働く中で「やりがい」を感じるのはどんな時ですか。  
(複数回答10%以上の回答のみ)

患者やその家族から感謝される	63.6
患者のニーズに答えて的確な援助や満足のいく対応ができる	61.3
仕事の中で自分が人間的に成長したと思える	58.7
職場のスタッフから相談されたり意見を求められたりする	22.9
医師やパラメディカルスタッフから信頼され評価される	15.9
職場の上司から信頼され評価される	13.9

表31 やりがい (A群～F群の比率)

	医師やパラメディカルスタッフから信頼され評価される	職場の上司から信頼され評価される	職場のスタッフから相談されたり意見を求められたりする	機器の操作や医学的知識をいちはやく身につけ活用する	業務に関連して研究などをまとめ発表をとらえて発表する	患者やその家族から感謝される	患者のニーズに応えて適確な援助や満足のいく対応ができる	仕事のなかで自分が人間的に成長したと思える	その他
A	14.8%	12.4	22.6	9.3	7.0	63.3	61.4	61.2	4.5
B	6.2	12.5	31.2	12.5	-	62.5	62.5	43.8	-
C	15.5	15.2	24.3	8.3	6.6	63.2	61.5	61.6	3.0
D	15.9	14.4	21.9	8.4	3.4	63.7	59.8	50.7	6.0
E	18.0	12.3	25.6	10.0	3.8	62.7	62.7	53.9	4.0
F	18.1	12.3	13.7	10.5	2.7	64.5	61.5	51.5	11.3

### (3) 切実な問題

あらかじめ設定した18項目から上位3つを選択する複数回答方式により〈表32〉の結果を得た。また、年齢層ごとに上位を占めた5項目をまとめたものが〈表33〉である。各世代を通じて労働量の多さを問題としてあげた者は多い。また30代以上では、「新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい」ことをあげた者が多く、技術革新が急ピッチで進み、それに伴い看護職のてがける医療処置が増えている医療現場で、少なからぬ看護職がとまどいを感じていることをうかがわせる。

「新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい」「看護職の目から『こうしたほうがよい』と思うことが現場ではなかなかいかされない」「毎日の仕事がマンネリ化しやすい」という3項目はいずれも上位にあがっている。これらの組み合わせは、現代医療の現場において看護職自身が「本来の看護」と考えるような仕事ができにくいと感じているというジレンマと、疎外感のあらわれと見ることもできるのではないだろうか。

20代では「自分の看護職としての適性・能力に

不安がある」が3位にあがっており、職業選択満足と継続意志についての結果とあわせて注目してよいだろう。

職種別に見た場合にも、労働量の多さはいずれも上位にあげられた〈統計表133〉。「保健婦」では「新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい」が30%台と他職種を上回り、また「責任あるポストや権限が与えられない」が8%と、他職種に比較して多くなっている。地域での保健婦活動の対象が母子から老人へと拡がり多様なニーズが表面化するなかで、業務に関して新たな対応を求められている保健婦の状況が反映されている。

前述の職業選択満足と継続意志に関する6群について、「切実な問題」とされた項目を〈表34〉に示した。F群については、勤務時間・労働量・収入等労働条件に関する項目に回答が集まっているほか、特に「自分の看護職としての適性・能力に不安がある」の比率が高く、「新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい」は低くなっている。これらはF群に占める割合の高い20代のもつ悩みを、凝縮した結果とうけとれるであろう。

表32 切実な問題

看護婦として働く中で、いま切実な問題は何でしょうか。 (複数回答10%以上の回答のみ)	
人手不足で労働量が多い	33.9
新しい知識や技術を習得していくのが難しい	24.9
仕事にみあった収入が得られない	22.9
看護職の目から「こうしたほうがよい」と思うことが現場ではなかなか活かされない	22.4
毎日の仕事がマンネリ化しやすい	20.6
看護職同士の人間関係が難しい	19.5
自分の看護職としての適性や能力に不安がある	17.5
責任が重く精神的に負担である	17.3
勤務時間が不規則	16.6
看護業務の範囲がはっきりしない	14.4
医師やその他のスタッフ等との人間関係が難しい	13.1
社会的な評価が低い	12.4
夜勤が多い	10.1

表33 年代別「切実な問題」

(%)

20代	1. 人手不足で労働量が多い	38.0
	2. 仕事にみあった収入が得られない	30.4
	3. 自分の看護職としての適性や能力に不安がある	25.2
	4. 看護職の目から「こうしたほうがよい」と思うことが現場ではなかなか活かされない	22.4
	5. 毎日の仕事がマンネリ化しやすい	22.0
30代	1. 人手不足で労働量が多い	34.8
	2. 新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい	26.1
	3. 仕事にみあった収入が得られない	22.8
	4. 看護職の目から「こうしたほうがよい」と思うことが現場ではなかなか活かされない	22.4
	5. 毎日の仕事がマンネリ化しやすい	22.0
40代	1. 新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい	28.9
	2. 人手不足で労働量が多い	27.3
	3. 看護職同士の人間関係がむずかしい	22.6
	4. 看護職の目から「こうしたほうがよい」と思うことが現場ではなかなか活かされない	22.0
	5. 毎日の仕事がマンネリ化しやすい	18.6
50代	1. 新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい	28.7
	2. 人手不足で労働量が多い	28.3
	3. 看護職同士の人間関係がむずかしい	22.5
	4. 看護職の目から「こうしたほうがよい」と思うことが現場ではなかなか活かされない	22.3
	5. 責任が重く精神的に負担である	21.5
60代	1. 新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい	30.8
	2. 看護職の目から「こうしたほうがよい」と思うことが現場ではなかなか活かされない	30.8
	3. 仕事にみあった収入が得られない	27.7
	4. 人手不足で労働量が多い	26.2
	5. 毎日の仕事がマンネリ化しやすい	21.5

表34 切実な問題（A群～F群の比率）

	勤務時間が不規則	人手不足で労働量が多い	仕事にみあった収入が得られない	夜勤が多い	責任が重く精神的に負担がある	新しい知識や技術を習得していくのがむずかしい	看護業務の範囲がはっきりしない	看護職の目から「こうしたい」がよいかと思うことが現場ではなかなか活かせない	仕事の上での相談相手がない	自分の健康に不安がある
A	13.5%	34.8	22.2	6.5	12.3	26.0	14.7	25.2	3.1	7.1
B	6.2	31.2	31.2	12.5	12.5	31.2	18.8	31.2	12.5	6.2
C	15.4	31.8	22.7	9.3	18.2	25.9	15.0	22.3	3.3	8.8
D	23.3	35.0	27.2	11.4	14.2	25.9	15.8	20.5	2.3	8.8
E	18.0	36.9	18.0	15.0	25.4	24.2	12.0	21.4	3.0	15.5
F	22.8	41.3	29.1	14.1	19.2	15.5	15.0	19.7	4.6	9.5

	自分の看護職としての適性や能力に不安がある	自分の管理職としての適性や能力に不安がある	毎日の仕事にマンネリ化しやすい	看護職同士の人間関係がむずかしい	医師やその他のスタッフ等との人間関係がむずかしい	責任あるポストや権限が与えられない	社会的な評価が低い	その他
A	11.2%	6.1	24.4	18.7	11.6	2.6	13.3	4.4
B	6.2	-	12.5	31.2	6.2	-	25.0	-
C	16.1	7.3	22.0	19.6	13.7	2.6	12.1	3.5
D	25.6	2.8	19.2	17.6	12.2	5.2	15.3	2.3
E	17.2	10.2	14.2	22.4	14.2	3.5	8.5	2.2
F	31.3	4.6	12.9	19.9	12.4	2.2	10.7	2.2

(4) 悩んだときの行動

仕事のなかで問題や悩みにぶつかったときにとる行動として、あらかじめ設定した14項目から3つ以内を選択する複数回答方式により〈表35〉の結果を得た。

年齢階層ごとに見た場合も「信頼できる人に相談をもちかける」は常に上位である〈統計表136〉。30代前半より若い世代では「誰かに悩みを聞いてもらう」が40%台を占めるが、30代後半以上の世代では「本を読んだり講演や研修などに出てその問題の解決法をみつけだす」がかわって上

位に入ってくる。20代では「親しい人とにぎやかに騒いで気晴らしをする」が他世代を上回る。また40代から50代では「じっとがまんして状況の変わるのを待つ」の比率が他世代より高い。

前述の職業選択満足と継続意志に関する6群について、この項目の集計結果を〈表36〉に示した。F群では知識の獲得や話し合いなどで問題解決をはかるといった内容の項目で他の群より低い値となり、「じっとがまんして状況の変わるのを待つ」「なにもせずに寝てしまう」等の項目が他群より高い値となった。

表35 悩んだときの行動

仕事のなかで問題や悩みにぶつかったとき、あなたはどのような行動をとるでしょうか。  
(複数回答10%以上の回答のみ)

信頼できる人に相談をもちかける	63.2
問題解決のため当事者や関係者と話し合ってみる	49.7
誰かに悩みを聞いてもらう	35.9
本を読んだり講演や研修などに出て、その問題の解決法をみつけだす	32.0
趣味・レジャー・スポーツに熱中することで気晴らしをする	16.9
親しい人にとぎやかに騒いで気晴らしをする	16.5
じっと我慢して、状況の変わるのを待つ	15.1

表36 悩んだ時の行動 (A群～F群の比率)

	本を読んだり講演や研修などに出題、その問題の解決法をみつけだす	問題解決のため、当事者や関係者と話し合ってみる	信頼できる人に相談をもちかける	じっと我慢して状況の変わるのを待つ	我状況のかわるのを待つ	宗教的な心の支え(祈り、教典、祈とうなどを求める)	睡眠薬や精神安定剤などを用いて精神を安定をはかる	お酒を飲んだりおんぼらしをする	親しい人にとぎやかに騒いで気晴らしをする	人いやいや食ったり、おいしいものを食べたり、やけ食いをしたりする	誰かに悩みを聞いてもらう
A	36.2%	52.8	66.4	12.6	4.0	0.6	3.5	12.5	2.6	31.6	
B	50.0	37.5	50.0	18.8	-	-	-	6.2	12.5	50.0	
C	33.0	51.6	65.2	14.0	3.3	0.8	3.9	16.7	4.1	37.4	
D	24.7	44.1	61.1	17.0	3.6	0.5	4.9	18.6	5.7	36.6	
E	30.6	46.5	59.0	19.2	3.0	2.5	4.5	18.2	6.7	36.6	
F	22.6	29.2	51.8	20.9	2.7	0.7	9.7	24.1	8.5	38.9	

	問題になってあまり深く考えず、はたしや態度をとる	趣味・レジャー・スポーツに熱中することで気晴らしをする	何もせず寝てしまう	その他
A	2.1%	17.0	5.8	1.4
B	6.2	25.0	18.8	-
C	3.4	16.6	6.9	1.3
D	4.1	19.8	11.6	1.0
E	2.7	14.9	11.2	2.0
F	6.3	19.0	14.8	1.7

## (5) 社会的ネットワーク

日常のなかでぶつかるさまざまな問題状況に際して、具体的な援助を提供し、あるいは精神的な支持をしてくれる人々の存在は、われわれにとって不可欠のものである。場面に応じて必要な援助の種類はさまざまであり、その際に援助者としてわれわれが選ぶ他者もまた、多様である。個々人がその周辺にかたちづくるさまざまな援助者（および援助を求めてくるような他者）との関係の広がりや、ここでは社会的ネットワークと呼ぶことにしたい。

前項まで見てきたように、看護職は医療現場では重い責任を負い、時に患者を精神的に支える役割も担わねばならない。また、多くの者は、家庭責任をも負っているのである。職業人として多くのストレスをかかえる看護職にとって、社会的ネットワークの存在は重要である。

今回調査では現在親しく交際している人と知りあった機会について、および援助者・支持者について若干の項目を設定し、会員看護職のもつ社会的ネットワークの一端を把握することを意図した。

現在親しく交際している人と知り合ったきっかけは〈表37〉のとおりである。各世代を通じて最も多いのは「現在の職場で」という回答である。就職して間もない若い世代では「看護学校に在学中」という答が多く、「現在の職場以外の職場で」という回答はある程度キャリアを積んだ30代後半からやや多くなっている〈統計表139〉。また「子どもを通じて」という回答は、学齢期の子どもをもつものが多いとみられる30代後半から40代にかけて他世代より多く、「住いの近隣で」という回答は30代後半以上の世代で増えてきている。「趣味や学習のサークルを通じて」という回答は40代以上

の世代で高い。

「あなたの仕事を日頃評価し認めてくれている人」が「いる」と答えた者は89.9%でその相手は〈表38〉のとおりである。年齢層別に見ると、30代以上では「配偶者」「子供」をあげた者が多くなっているが、各世代を通じて「職場の仲間」「看護職の友人」の比率が高くなっている〈統計表143(1)〉。

「仕事の上で悩みにぶつかった時、あなたの気持ちを察して支えてくれる人」が「いる」と答えた者は92.9%で、その相手は〈前掲表38〉のとおりである。前項の「評価し認めてくれる人」よりもさらに「職場の仲間」や「看護職の友人」に回答が集中しているが、「配偶者」は依然上位にある。

社会的ネットワークについて、家事援助のような具体的なサポートの提供者は、家庭責任の有無にかかわらず、職業生活を続けていくうえで不可欠の存在とあってよいだろう。「家事や育児をするうえで不都合がおこったときや、あなた自身が病気になったりした時に、あなたを手伝ったり代わってやってくれたりする人」が「いる」と答えた者は84.7%で、その相手は〈表39〉のとおりである。「配偶者」をトップに同・別居にかかわらず親族のサポートが大きい。年齢層別に見ると「自分の親」をあげた者は30代以下で多く、30代では「配偶者の親」の比率も高くなっている。また20代では「友人・恋人など」の比率が他世代よりかなり高い〈統計表142(1)〉。

以上社会的ネットワークの内実にふれたが、今回の調査からは会員看護職が職場を中心にした人間関係に支えられていることがうかがえる。従来わが国は勤労者にとっては職場を中心とした人間関係が生活のあらゆる面について支配的な「社縁



社会」であるといわれており、職業人としての看護職もまたその例外ではない。しかしながら、職場はちがうが同じ看護職として支えあう仲間があり、また子供を通じ、地域社会を通じたさまざま

なつながりをもつなど、その社会的ネットワークにはある種のふくらみをみいだすことができるといってよいのではないだろうか。

表37 現在親しくしている人と知りあったのは（複数回答）

看護学校等に在学中	50.6%
看護学校等以外の学校に在学中	24.6
現在の職場で	67.7
現在以外の職場で	19.6
住まいの近隣	13.3
子どもを通じて（父母会・PTAなど）	8.2
趣味や学習のサークル等を通じて	14.2
労働組合活動や社会的関心をもった集りなどで	2.8
宗教・信仰の場で	3.2
知人・友人から紹介されて	6.4
その他	2.5

表38 日頃評価し支えてくれる人（複数回答）

	評価してくれる人	支えてくれる人
配偶者	44.3%	37.7%
子供	19.9	7.6
配偶者・子供以外の家族	29.8	14.4
職場の上司	27.2	19.9
職場の仲間	45.7	51.7
看護職の友人	38.2	47.3
看護職以外の友人	22.1	16.2
恋人	6.9	8.2
恩師	5.7	2.8
その他	2.2	0.9

表39 家事援助者（複数回答）

配偶者	49.0%
自分の親	47.2
配偶者の親	29.4
子供	16.6
兄弟姉妹	27.3
友人・恋人など	15.1
家政婦・ヘルパーなど	0.8
近隣の人	6.3
職場の仲間	15.4
その他	1.7

## (6) 生活領域のひろがり

### a) 学校で学ぶ

会員看護職の私的な生活の広がりを把握することを意図して、調査時点から1年以内に半年以上にわたって在籍した学校等と、主に学んだ内容などについての設問をもうけた。

「在学した」者は全体の8.6%である<統計表145(1)>。看護職としての経験年数が2年未満の者については、専門学歴にあたる学校等への在学について回答した者も含まれるとみられるので、経験年数2年以上の者についての集計もおこなったが、その場合も「在学した」者は全体の8.3%であった。

在学先としてあげられたのは「各種の通信教育」30.3%、「専門学校」25.7%、「高等学校(通信制・定時制)」24.5%、「4年制大学(通信制)」13.7%などである<統計表145(1)>。

学んだ分野については、「看護学」38.9%、「高等学校課程」21.5%などとなっている<統計表145(2)>。在学先と学んだ分野とをクロス集計した結果からは、今回「在学した」という回答の多くは「進学コース」への在学をさしていると推察される。

過去1年間にかかった費用については10万円未満が55.1%を占める<統計表146>。週当たりの授業時間については、通信制の在学者が多いことを反映して、「通学の必要はない」と答えた者が31.8%となった。

「在学した」者について、それらの学校等で学ぶことの意義について尋ねた結果、「自分の視野を広げる」と答えた者が51.3%と多数を占め、次いで、「現在の仕事のうえで役立つ」が31.9%<統計表147>となった。学んだ分野等についての回答結果を総合すると、本項目の回答者全般について、

看護職としての業務に関連した分野への関心が高いことがうかがえる。

### b) 余暇生活

「現在の趣味・習いごと・スポーツ・レジャー」が「ある」と答えた者は79.1%である。しかし、「30～34歳」では「なし」と答えた者が28.7%おり<統計表149>、また、「満1歳未満」の末子をもつ者では46.5%、「1～3歳」では39.2%が「なし」と回答している。幼児との生活は概して多忙であり、余暇生活のありようにかかなりの影響を及ぼしていると考えられる。

余暇の内容について<表40>の結果を得た(複数回答)。年齢階層ごとに見ると、20代では「音楽・映画・演劇などの観賞」「ジョギング・テニス・水泳など」の比率が他世代より高く、50代後半以上の世代では「お茶・生け花・洋裁・編物・手芸・料理など」の比率がやや高まる<統計表149>。

余暇内容を職種別に比較した場合、特徴的なのは「保健婦」で「エアロビクス・ジャズダンス・ヨガ・体操など」の比率が他職種よりかなり高いことで、現場で健康教育などの指導を行うことの多い保健婦が、自ら健康づくりに励んでいることが推測される。

過去1年間のこれらの余暇活動への支出は「10万円以下」が55.3%<統計表156>と、非常につましいと言ってよいであろう。年代別に見ると、20代および50代では、30代、40代と比較して余暇支出が多い傾向が見られ、「10万円以下」がそれぞれ50.3%、47.8%(30代・40代では60%以上)であって、それ以上の支出があったと回答した者の比率が高くなっている。

これらの余暇活動の意義については「気分転換や気晴らし」「生活にうるおいをもたせる」「仕事

のことを忘れて熱中できる」などの答えが多く、「仕事のために活力をたくわえる」は低い割合にとどまった<表41>。年代別に見ると、20代では「気分転換や気晴らし」に回答が集中（47.7%）しているのに対し、40代・50代では「生活にうるおいをもたせる」が「気分転換や気晴らし」とともに30%前後を占める。その他、30代以上では「健康・体力の増進のため」という回答が20代に比べて多く、また40代・50代では「いきがい」「仕事のために活力をたくわえる」という回答が他世代より多くなった。

余暇活動の種類別に「意義」としてあげられたものを見ると、「ジョギング・テニス・水泳など」「エアロビクス・ジャズダンス・ヨガ・体操など」の余暇活動をしている者では「健康・体力の増進のため」という回答が多く、特に「エアロビクス・

ジャズダンス・ヨガ・体操など」については強い相関を示している<統計表158>。

世代によっては余暇活動が生活に占める比重にいくらか違いが見られるが、これについてはライフ・ステージ（未既婚の別、要保護家族の有無など）の違いや、職場での役割、先に述べた職業生活に対する意識等、さまざまな要因が影響を及ぼしているものと推測される。

今回の調査からは、「気分転換」という形で無意識に、職業生活を含めた全生活を円滑化するために余暇活動が営まれている様子が見えてくる。その多くが緊張度が高く時間的にも厳しい職業生活をおくっている看護職にとって、生活の中心はいやおうなく「仕事」であり、余暇活動は無意識のうちに「仕事のため」にいとなまれているといえそうである。

表40 余暇活動

現在あなたは趣味・習いごと・スポーツ・レジャーなどをしてますか。

お茶・生け花・洋裁・編物・手芸・料理など	49.3
登山・サイクリング・旅行・ドライブなど	43.7
音楽・映画・演劇などの観賞	38.1
ジョギング・テニス・水泳など	22.6
文芸・絵画・写真など	10.3
音楽演奏・コーラス・詩吟・民謡など	8.7
エアロビクス・ジャズダンス・ヨガ・体操	8.4

表41

趣味などはあなたにとってどんな意味を持っていると感じますか。

気分転換や気晴らし	36.9
生活にうるおいをもたせる	27.4
仕事のことを忘れて熱中できる	13.8
健康、体力の増進のため	10.7
仕事のために活力をたくわえる	5.6
生きがい	3.9
収入に結びつきたい	0.3
何かしていないと不安だから	0.2

